街に、ルネッサンス

UR都市機構 × Bon Marché（ボンマルシェ） Special Edition

企画／朝日新聞社メディアビジネス局
Editor: Kumiko Okamoto (BON MARCHE) Design: Ayako Seki

［広告特集］

今、住みたいのは〝つながり〟のある〝まち〟

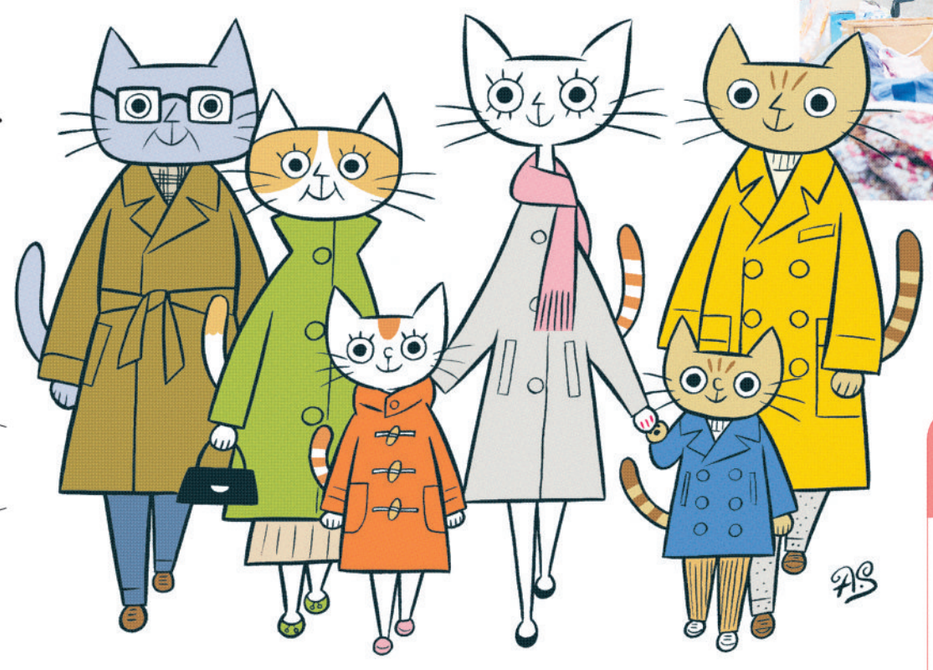
働くママに優しい〝まち〟って？

ボンマルシェ編集部が、注目のURの取り組みを取材してみました！

子育て中の家族にとって、住まい選びは大きな関心事。
通勤や予算との兼ね合いを考えたり、子育て環境に関する悩みも多く…
住まい選びは難しいものです。そんな悩めるママたちを救う
「まるごと子育てに優しいまち」が東京・江東区にある！ との情報を
キャッチした編集部が、UR都市機構（以下UR）の
「東雲キャナルコートCODAN」へ！

（撮影：飯田安国、河内彩／イラスト：ソリマチアキラ／取材・文：石川麻紗子）

約半年に1回のペースで開催されるフリーマーケットで
にぎわうメインストリート。フリーマーケットには子どもたちも積極的に参加。
世代を超えた触れ合いの場となっている。



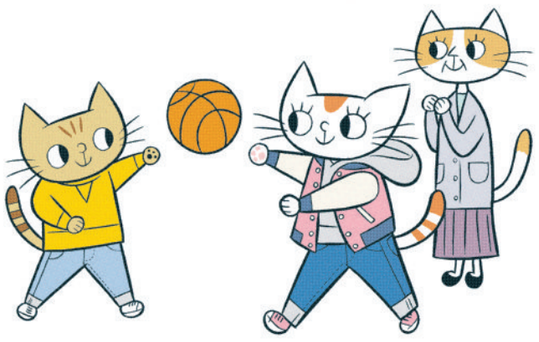
編集部とbonbonファミリーが
見学に行ってきました！

都心へアクセス良好な地に子育てに必要な施設がまるごと揃う〝まち〟がある！

ストレスフリーの子育てができる子ども中心の〝まち〟

「東雲キャナルコートCODAN」は東京・銀座からほど近い、アクセス良好な立地のデザイナーズ団地。敷地内の南北に長くのびるメインストリート「S字アベニュー」は、車の侵入がなく子どもの行き帰りも安心。通り沿いに民間学童施設、保育園、塾や各種お教室、クリニックなどが立ち並び、親子で寛げる芝生広場やベンチが点在。団地に隣接する区画には、24時間営業の大型スーパーと、シニア世代とも交流できる区立施設「グランチャ東雲」や公園も。団地周辺のみで生活が整う、贅沢な子育て環境です。周辺には民間タワーマンションが林立し、職住近接を望む子育て世代が急激に増えたため、子育て関連施設も充実してきたようです。

「おうち保育園しののめ」園長先生に〝まち〟の印象を伺うと、「子どもに寛大」という言葉が返ってきました。近隣の苦情に悩まされる園も少なくない中、ここでは全くないそう。「のびのびと安心して子育てができ、みんなで子どもを育てる子ども中心のまちです」と。周囲の目が気になる場面も多い中、子育て中の親がゆとりをもって暮らせるのはとても大事なこと。園の利用者は「子育てに必要なものが徒歩圏に全部揃う便利さに驚きました」と、充実した住環境での子育てに満足そう。また、「雨でも団地内に遊べる場所がほしい」という住民の声を受け、集会室の一つをキッズ向けに改装した「キッズ集会室」もうれしい施設。ママサークルの集まりやパーティルーム代わりに使われ、子育ての悩みの共有やストレス発散など、ゆとりある育児に一役買ってくれているそうです。実際にここに住む子どもたちにこの〝まち〟の魅力を聞いてみると「友だちがいっぱいいてうれしい」「いつも楽しい」といった声が聞かれました。



地道なコミュニティー活動が、快適な〝まち〟を生み出した

子育てしやすいまちづくりの秘訣とは!? UR・和田真理子さんによると、子育て支援の施設・サービスを整えるだけでなく、イベントを通じて住民交流を促進・サポートしてきたことも要因だといいます。

当初はUR主導でイベントを開催していましたが、イベントの企画やスタッフをやってみたいという住民が集まり、フリーマーケットや夏祭り、クリスマスなどの地域を巻き込んだ住民主体の自主運営イベントが増加。多世代の住民と地域の方がイベントを通じてゆるやかにつながり、さらにコミュニティーが活発になるという好循環が生まれているようです。この〝まち〟の子育て環境は、お仕着せではない地道なコミュニティー活動の積み重ねと、住民の声を汲んだURの細やかなサポートによって作られていることを実感しました。

ボンマルシェアンバサダーに聞きました！

Q.1 子育てで困った点は？（施設以外で）

困っていることベスト3（上位3位）はこんなこと

1 子育てのストレスを解消する機会や場が少ない
2 **異世代と触れ合う機会が少ない**
3 近隣からの騒音苦情

Q.2 子育て世代が求める施設・住環境は？

1 **公園など屋外の遊び場……75%**
2 医療機関……63%
3 緑や自然に触れ合える場所……62%
4 保育園・幼稚園などの保育施設サービス……49%
5 学童保育……23%

※アンバサダーアンケートより n=167

URの子育て応援

「ずっと暮らし続けられるまち」を目指して。
全国各地で子育てしやすい住まいと環境づくりを展開中！

UR東京東エリア経営部 **和田真理子**さんに聞きました

子育てのために必要に迫られ引っ越すのではなく、「ずっと暮らし続けられるまち」があれば、住まい選びの悩みは激減するかもしれません。URでは、「多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち」〈ミクストコミュニティ〉を目指し、そのまちに「足りないもの」を補えるような多様な子育て世帯事業の応援を各地で行っています。

現在3500園超に広がった「小規模保育園」。実は東雲の「おうち保育園しののめ」が日本初。URも団地の住戸を提供して保育園をつくるというモデルケースを作り、今では30団地で取り組み実績があります。他にも学童保育施設や子育てサロンの誘致、子育て世帯向けに「近居割」など様々な家賃の割引制度*を導入するなど多くの取り組みを行っています。

*各種制度の適用には対象条件を満たす必要があります。制度により対象団地が異なります。

1. 世界で活躍する建築家が参加したプロジェクトのモダン建築には、昔ながらの「団地」のイメージは無い。 2. 3.「おうち保育園しののめ」の遊びは子どもたちの意志を尊重。
4. 雨の日の遊び場「キッズ集会室」のおもちゃはフリーマーケットでゲット。 5. 安全にのびのび遊べる芝生広場。

取材後記

実は、私は東雲キャナルコートCODANに住んだ経験があります。その頃の、シングルやDINKS中心から様変わりして、素敵な「まるごと子育てに優しいまち」に成長した姿に目を見張りました。単に子育てに良いサービスや施設を整備するだけではなく、〝まち〟を活性化させ「ここに住みたい」と思わせられるのは住民同士のつながりなんだな、と痛感。子育て中の私にとってはとっても興味深い〝まち〟でした（石川麻紗子）

思いやりを、まちに、くらしに。〝URまちづくり最前線〟 https://www.ur-net.go.jp/welfare/ UR都市機構 ウェルフェア